

2024年11月4日 新潟 アンケート集計

ご参加 85人

アンケート回収 65枚（掲載等の使用に同意 52枚 同意しません 7枚 無回答 6枚）

〈以下の回答は掲載等の使用に同意された方のみの分です〉

映画に関心を持たれたきっかけ

- a 4人 自身、周囲の方に解離性同一性障害の症状がある
- b 31人 解離性同一性障害について関心がある
- c 2人 ドラマとして面白そうだったから
- d 2人 キャスト・スタッフに関心がある
- e 4人 評判を聞いた
- f 16人 その他
 - ・資料を読んで感動したから
 - ・解離性同一性障害ではありませんが（と、見えますが）生きづらিদらう、苦しんでいるであろう友人がいます。色々な人を理解したり、話を聞いたりする事の大切さを感じ、参加しました。
 - ・上映スタッフに紹介された
 - ・友人から勧められた
 - ・女のスペースでのイベントで企画を知ったので
 - ・女のスペーススタッフの方のすすめ
 - ・誘い
 - ・相談員としての学びの為
 - ・主催者の一人
 - ・チラシ
 - ・大学の掲示板にポスターが載っており、興味が湧いたため
 - ・被虐待児の研究を通して

自由記述

【同意します】52枚（無記入もあり）

・それぞれがそれぞれらしく色々考えさせられました。自身を振り返るいい機会をもらいました。もっと自分を許し好きになれました。ありがとうございました。

・映画について：途中で、優しさ、温かさに涙が出ました。その人なりのやり方で、主人格を応援し支えているのだなと。役者さん、監督の友塚さん、素晴らしいです。わかり易かったです。

トークについて：DIDがある人もない人も、全ての人が共有していけるといいなと感じました。生きるためにすごく工夫していることを「統合する」だなんて、一体どこの誰が言うてるんでしょう！？

学びの機会をありがとうございました。

・自分を守るためにということは、よく理解できた。ただ、同一・協力に至る過程が、映画で描かれるより時間的な問題だけでなく、もっと複雑で大変なことなのだろうと思ったし、本人の苦しさはとうてい想像できない（自分自身）。
トークがあることで、より理解できて、大変よかった。

・＜映画＞精神障害の知人、友人が多くいるが、解離についてはよく知らなかった。人口の1%以上存在すると聞いて、まわりにもいるかもしれないと思った。奇妙な行動をする人を「変わった人」として追いやっていたのかもしれないと反省する。後発的・環境的要因によって発症するということであれば、当事者への理解やケアに加え、虐待や家庭内暴力を防ぐための社会的取り組みが重要だと思った。いろいろな気づきがあり、映画を観てよかったと思った。

＜トーク＞「解離はなくさなければいけない症状ではない」「統合を目指さない」というお話に納得した。症状と付き合いながら、生き抜く力や手段やまわりの理解が大事というのは、ほかの障害や病気とも通じるものがあると思った。当事者もさることながら、多くの人たちにお二人の話を聴き、映画を観てもらいたいと思った。

・（小学校）6年生の息子が学校でいじめにあっていて、頭をケガさせられ病院でCTを撮ったりしている。彼はおこると記憶がなくなるとたまに話しているので、カイリの症状かと思った。そろそろ心療内科に行く予定だったので、大変参考になりました。

・DIDについての無知を知らしめてくれた作品でした。身近になかったもので、実際にどのような症状で、当事者の方が苦しんでおられるかがわかりやすく表現してもらえました（それぞれの人格を別々な方が演じるなど）。自分でももう少しDIDについて調べてみようという気持ちになりました。

・とても素敵な作品とトークでした。多かれ少なかれシステムを抱えながら生きていると思う。Team、コントロールを理解して付き合うこと、サバイバーとして敬意を払いたい。大切な自分を守るために必要なこと。

・統合失調症の弟がいます。家族、本人が苦しんでいましたが、やはり病気への理解が大切なのは分かっているのです。しかし家族だからこそ感情的になる場合が多いのも事実です。今回、同一性障害を知るきっかけを頂きありがとうございます。やはり複雑な苦しさをかかえた方（大きなトラウマを抱えた方）が沢山いるんだと気づきました。とても学びになりました。トラウマインフォームドケアをもっと知りたいです！

・映画を観て、お二人の話を聴いて、初めて理解が深まった。特に、中島幸子さんの話を初めていろいろ聴いて、感動した。この映画が全国に広まって、多くの人たちに見てもらって、「解離性同一性障害」についての理解が広まることを期待します。ありがとうございます！

・教育関係者です。子どもたちの中にも、こうした症状を抱えた子がいるだろうなと思いながら拝見、拝聴しました。対応の仕方を考えさせられました。難しいと思いました。

・ 自分もその子の一部になったような気持ちになりました。映画を見ている内に、その子頑ががんばって、生きて、とか応援していて、ちいちゃんやしっかりは同じように思っていたのかなと考えました。知見を広め歩いてくださる活動に感謝しかないです。

・ 監督がこの映画のために学んだ卒業制作だったということ。中島幸子さんの制作にまつわる裏話。少年院、解離性同一性障害ともに、トラウマが起因していること、初めて知った。DIDを理解する必要性の大切を感じた。

・ 生きるために解離しなければいけなかったと言われて、がんばって生きてきたんだなと思いました。解離についての理解がもっと深まればいいなと思いました。

・ 解離性同一性障害という名前をはじめてしりました。すべてを理解することも、相手を知ろうと思っても、自分をみとめることもなかなかむずかしいと思います。声に出すことができる人、出したくなくても知られてしまう人、どちらも...

・ 解離性同一性障害について、まだ完全には理解できていませんが、これからは、自分の身近にもその症状で悩んでいる人がいるかもしれないことを意識しながら生活（仕事も）していこうと思います。お二人ともすばらしくお話がお上手でした！わかりやすく説明していただき、ありがとうございました。

・ おもしろい映画でした。解離について学校で学んでいたもので、それをふまえて見る事が出来ておもしろかったし、当事者の人のきもちを考えてみる事が出来たように思う。今後の勉強にもなりました。

・ 解離性同一性障害、はじめて聞きました。多重人格は聞いたことがあります。すこし理解しました。

・ 解離について知ることができた。

・ 解離した人格をトウゴウすることはないと言うのが目にウロコ。ここは安全だからと言うと人格が増えていると言うのも驚き、寄り添うと言う重要性が、いかに大切なことだと気づきになりました。

・ 「人格が変わる」って、「自分の中のいろんな性格が出てくる」くらいのことかと思っていただけれど、もはや「別の人物になる」（人によって人格ごとの共有具合も違うのだと思いますが）くらいのことが起きているんだというのが驚きでしたし、映画によって、それがとてもイメージしやすかったです。貴重な機会をありがとうございます。もっといろんな人に観てほしいですね。

自分の妹がそうかも？と思うのですが、対応の方法を学べる場所などはありませんか？また、この症状では性別に関係なく表れますか？あと、虐待以外だと、こういったものがトリ

ガーになるのでしょうか…。「こういう人もいる」と知るだけで、いろんな人との接し方が変わりそうです。ありがとうございました。

・ 義姉が解離性同一性障害でした。20年前、37才で他界しました。なにもできない自分がいました。少しずつ理解できるよう自分なりにできる事をしてきました。今日、分かった事がたくさんありました。ありがとうございました。

以前、統合失調症の理解を深められたと思った作品がビューティフル・マインドでしたが、その時と同じ感覚でした。

・ 自分の知らない自分がいて生活をしている。どんなに恐いことで、人に言えず、どんなに孤独なことでしょう。そんな思いをひとり抱えて必死に生きている人たちがいる。人格さんたちがコミュニケーションをとり、協力して生きやすくしていくときにDIDのことを知った私たちがそばにいたらいいなあと思いました。上映の前のトラウマをかかえているかもしれない方々への配慮がやさしくて。

・ 精神科に勤務した事があり、分裂病の妄想が出てくる方があり、もしかしたら、妄想、分裂病ではなく、解離ではなかったのか？と考えさせられました。この人の人生はどうなったのか...と思ったりしました。ステキな映画で久しぶりに感激しました。どうぞ、また映画を作ってください。

・ 今まで病気としてとらえていました。以前はまずしいために少年院に入っていた子供たちが、今は社会からはじかれて入っていると感じています。社会がうけ入れる人の“はば”をせばめていると感じています。

・ 解離性同一性障害という事を、少し理解しました。

・ DIDについて初めて知りました。映画みられてとても良かったです。これからもがんばって下さい。

・ 映画の前・映画の後のお話で、映画・DIDを知る（理解する）ことができました。チーム（システム）で生きる、チーム（システム）は力！！生き方のコツ！！就労中は労働組合・職場分会・婦人部でチームをつくったなあ、働き続けようのスローガンで。退職後は地域（自治会）で、様々な年齢、様々な考え等、様々な居住者と良い（安心な）地域をつくる手だて（行事）に参考になりました。

・ 生きていくために「解離」する・したということにあらためて気付いた気がした。とても濃厚な時間でした。書きたいことたくさんあり、かけずにすいません！！中島さん、友塚さん、とてもかっこいいです。

・ 「24人のビリー・ミリガン」という小説を随分前に読んだことがありました。多重人格という症状をその時初めて知りました。現在は解離性...という名称に変わったことを知りませんでした。誰しも相手によって態度を変えることがありますが、それが記憶を失い、社会

生活を行う上で支障をきたすほどになる。頭の中で何人ものしっかりとした人格が存在する、となると、病なのだと思います。後天的なものだというのですが、治療して治るものなのでしょうか？服薬はあるのでしょうか。本人が気付いていない場合はどうしたらよいのでしょうか。統合を目指さないことを知りました。映画とトークを通じて解離性同一性障害の知識が深まりました。ありがとうございました。

・ 解離性同一性障害について知ることができて良かったです。大きなトラウマを抱えた人の、少しでも力になれるように、理解することができるようにと思います。

・ 解離があることは自覚しているけれど、その先に進めていない。今日のトークで、日本での治療に不安を感じた。

・ DIDについて理解が深まりました。学習出来て良かったです。アフタートークでの”引きこもりの方々は、世の中が安全ではない”と話されたことが印象に残っています。これからも多様性について理解を深めていきたいです。

・ なかなか理解に難しいことだと思いますが、そのきっかけになってよかったと思います。これからも情報に敏感になりたいと思います。安心して生活できる状況になりますように。

・ 子どもの頃に、リーダーズダイジェストに載っていた多重人格の子の話を読んだことがあります。それがきっかけに関心はあったのですが、今日参加して、色々なことを知りました。生きのびるための方法として、色々な人格が生まれていく。これは作用に対する反作用みたいなことかなと思いました。福岡伸一先生の。動的平衡という本にかいてあることをりこうするようなことなのかなと思いました。

・ 解離性同一性障害について、上映会を通して大変理解が深まった。

・ 大変、興味深く、解離性同一性障害について、とても適切にとらえられ、敬意を表したいと思います。今回参加した目的は2つあり、被虐待児の研究をしてきたことと、11月中旬から触法精神障害者の社会復帰施設のスタッフ研修を行うにあたり、中島さんがおっしゃる様に法を犯す少年達の多くが、被虐待経験をしていること、その特性を知った上で、スタッフとして支援すべきであろうと思う。その意味で、本日の学びは大変有意義でした。もう一つは、解離していくことは、生きのびるために必要な能力、その通りであろうと思う。又、統合するということは、生きのびるための能力を否定することにはなるのだと感じた。とても新しい視点であり、その人の存在を否定することにもなるのだと！

・ 障害（症状）があってもなくても、自己を受け入れる大切さを改めて感じました。卒業制作のクオリティの高さにビックリ！しました。見に来て良かったです。生きのびるための工夫は色々あって、様々な人が様々な工夫をしているのだと思います。その工夫を否定する事なく、無事人生を生きのびて欲しいです。

・ DIDの事がとてもよく分かりました。Teamがつく意味が分かりました。DIDの方々がとても苦しんでいる。DIDの症状が出る原因、トラウマってすごい事がわかりよかった。勉強になりました。

・ 知らなかったので大変私の「知恵」になりました。当人の人たちの大変さを知りました。

・ 20年前にその子の様な子と会い、会話した時の事を反省しかなかったです。一人として会話してあげれず、いなくなる様にせっとくしていた昔の自分に教えてあげたいです。

・ 数年前、韓国ドラマ「キルミー・ヒールミー」を見ました。DIDをエンターテインメントとしてしあげていますが、理解しやすかったです（笑いも涙もありです）。今日の映画、トークでより理解が深まりました。

・ 当事者でもある中島さんのお話に圧倒された。当事者ではない友塚監督の、外から触れるからこそその視点と合わせて、とても濃い内容、参加して本当によかったです。DIDではないが、複雑性PTSDで治療をしていたことがあり、日常生活に支障はない現在でも、自分の心身の動きを注意して見えています。あらわれ方は違えど、根元に共通するものがあり、参考にできる考え方が非常に多かったです。

観に来られて本当に良かったです。素晴らしい作品とお話をありがとうございました。

パンフレットに書いてある「解離のスペクトラム」では、小学校5～6年頃、離人の症状が出たことがあります。現在でも、「症状」のレベルには行かなくても、車の運転でオートマチック車のギアチェンジがあったような感覚が分かることがあります。解離というと特別なものと思われがちなのですが、一般的に人々の心身に多かれ少なかれ起こるものなのではないかと思っています。

・ 頭の中にいろんな人の声が聞こえる生活は、他の人には理解しづらいから、今日の映画で理解できてよかった。解離が起きてるのは、生きるためで、大きなトラウマから乗り越えられるように頑張っているということを知れてよかった。参加できてよかった。ありがとうございました。

・ 今まで解離性同一性障害について名前やどのようなものかを大雑把に知っていたけど、詳しくは知らなかった。映画を見て、もしかしたら自分の周りにも本当は周りに隠しているけど悩みを抱えている人もいるかもしれないと思い、知識を深めていかなければいけないと感じた。自分の悩みを気軽に伝えられなかったり、周囲とのすれちがいが生まれて想像もできないほど多くの苦しみを感じているのではないかと思った。素敵な作品をみることができて良かったです。ありがとうございました。

・ 映画が心に響きました。まず「知る」こと。が大事だと思いました。知らないままだと何も始まらない。発信も受信も重要だと感じました。自分の努力と、必要なサポートを受けること、声を出して助けを求めることの大切さを実感しました。私も怖がらずに実生活で活かしていきたいです。今日はありがとうございました。

・今日は、ありがとうございました。知識はありませんでしたが、これを機に、自分なりに映画、講演のお話から、知識を深めていけたらと思います。

・ずい分前ですが、大竹しのぶさん主演でドラマをみて関心ありました。統一をめざさない、一緒にいる事が力になるとははじめて聞きました。そうですね。普通をめざすことが良いわけではないと思います。1~3%というのを聞いて、私の知っている人の中にもおられるのか、と思いました。今日はありがとうございました。

・具体的なイメージをもつことができました。ありがとうございました。

・今まで全く理解のなかった病気でした。自分を守るため、生き延びるための手段と知り、衝撃を受けました。また、これからますます増えるだろう、との言葉、深く心に残っています。虐待のない世界になるのはもちろんですが、そのような症状のある人たちが偏見を受けることのない世の中になるといいな一、と思いました。

・理解を深めたい。誰もがグレーゾーン。この映画は入口。生きのびるー共存。トークが非常に分かりやすく、心ゆさぶられました。